

初秋の東北の山を訪ねる
八甲田山・岩木山

実施日 2012年9月9日(日)～11日(火)
 天候 雨時々曇り
 リーダー 涌井 良明
 会計 中村友子、渋谷京子
 参加者 若村貴世子、齋恵美子、若村勝昭、
 佐藤金治、伊東勝昭、涌井良明、
 山崎富美恵、小松勲、小松月子、
 安田三恵子、石附智江、渋谷京子、
 中村友子、伊藤久雄、石原勝正、
 宇野輝代、小林千恵 計17名
 費用 JR(大人の休日倶楽部パス)15,000円
 宿泊費20,435円 レンタカー(燃料込)5,742円 合計41,494円
 タイム 9/9 新青森(13:20～13:40レンタカー)酸ヶ湯温泉温泉(15:00) 泊
 9/10 酸ヶ湯(8:12)大岳鞍部避難小屋(10:30～10:45)大岳(11:10～11:20)仙人岱湿原(11:50～12:15昼食)酸ヶ湯インフォメーションセンター駐車場(13:45)酸ヶ湯(13:50～14:20レンタカー)いわき荘(16:00) 泊
 9/11 いわき荘(8:05レンタカー)岩木山スカイライン八合目(8:55・9:15リフト)リフト山頂駅(9:30)岩木山頂(10:15・10:30)八合目駐車場(11:30・12:15昼食/レンタカー)新青森駅(14:40・15:43新幹線)

9/9 新青森はアメノナカト～で先着したいた方々と合流。ナンモないダダヒロ～イ駅前広場の向こうのレンタカーショップから3台で青森の山旅はスタートした。今日は八甲田山中の国民温泉『酸ヶ湯』泊だけなので、ツアー気分です。15時雨上

がりの酸ヶ湯着、さっそく混浴温泉に飛び込む人や、散策組と夕食まで自由に過ごす。近くの東北大植物園までの散



歩では、秋の気配のする小湿原などを見て回った。西の茜雲に明日の雨の落ちない様に願掛けをして戻る。

個室をセットしてくれてゴージャスなビール付きの夕食と更に前夜祭も催されて各部屋へ zzzz...

9/10 5時薄明るい窓を開けると、本降りの雨、ウーン どうしよう どうしよう

と他のメンバーと相談したりしていたが、朝食辺りから雨も止み一部青空も覗いてきた。皆一気にテンションも上がってくるが、予は傘だけでマークもないので、何時また降り出すか分からないが、予定の逆回りコースで滑り易い木道が登りなるような行程にして、8時に宿を後にする。

旅館脇の登山道から毛無岱へ向かう、15分程で平坦

路となり、しつとり濡れた道を辿る。木々の雫は感じるが雨粒は落ちてきていないのが今のところの救いだ。



小さく下ったりで小沢をいくつか越してから木段を登ると雨天ながらも前方が



明るくなり、下毛無岱の一角の湿原に登り着く。遠望は望めないが、広がる湿原は草紅葉の着色が始まったところでこの開放感

はやはり気分が良い。

この頃になって落ちてきた雨はジャマ物だが気分良く湿原の木道を行く、再び樹林に入り280段の木段(段差小さく歩き易い)をゆ

っくり登り上毛無岱に出る。ま～ゆるく緩やかなた峰々に囲まれた山上楽園の趣で北八甲田のイチオシの景観を遺憾なく見せてくれている。ウーン イイトコデスネ! 花の最盛期なら歩きがはかどらない所だろう。



この先からが登りのハイポイントとなり、ガ

ス = 小雨の道を登るが雨模様でも割と歩き易い道に感じた。

樹林がなくなり火山灰状の台地となりガスの中にぼんやり小屋が現れる。大岳鞍部避難小屋で冬も使える様に高床3階建てとなっている、中も小ぎれいでトイレも完備されたりっぱな小屋である。今日は休憩らしいものはとらずにゆっくりと歩き続けたので中を借りて初めてのヤレヤレと一息ついた。

出発間際に一瞬ガスが薄くなり井戸岳を下って来る人影を見た。大岳まで残り160mの標高差を登るが好天ならばさぞかし気分が良いと思われる火山灰と岩の道だ、山頂が近づくとつれ風が強くなる、傾斜が緩くなりガスのスクリーンが広くなると広い大岳に到着、一等三角点と山頂銘板があるが、

視界は10m以下で周囲は展望版で方角確認のみ、風が強いので写真だけ撮って早々に下山になる。

山頂をそのまま通過して仙人岱へ向かう、直ぐに金網で土砂流出防止された道になる。しばらくで鏡沼になるが今日は何も映らない只の水溜りだ。

灌木やササに覆われた道をかき分けるように下り続け、平坦な広がりが見えると仙人岱の湿原に降りたつ、幸いに雨は止んで風もこ



りガスの中にぼんやり小屋が現れる。大岳鞍部避難小屋で冬も使える様に高床3階建てとなっている、中も小ぎれいで



ないので湿原の一端で昼食にした。この先で木道になり、辰五郎の清水とある水場をと仙人岱ヒュッテへの分岐を過ぎると小沢となり、やがて硫黄の臭いの立ち込める沢状崩壊地の地獄湯ノ沢に出る。



岩ゴロの火山状の道から簡易橋で沢を渡ると樹林の山道となっていく、雨はすっかり上がっているが濡れた岩と木の根の道は

歩き難さもありゆっくりと下って行く。500mおきに酸ヶ湯までの距離が記されたポールを楽しみに、雪に曲げられたダケカンバ



やアオモリトドマツの巨木の森を下り、滑り易い赤土のが終わって鳥居が現れて酸ヶ湯上の駐車場で終了であった。旅館前で靴汚れを洗い、今日の宿泊地弘前百沢温泉にクルマを走らせる。城ヶ倉大橋の絶景を車窓から見て、途中ドシャ降りの雨に遭いながらも順調にアソベの森



いわき荘に着く。宿も温泉もそして食事もとってもグーな宿で津軽三味線のサービスもついて、気分良く床についた。但し、天気予報は明日も一日 ☔ マークのみ

9/1 さて、イヤ～ 今朝も稲光とドシャ降りて明けた。しかし、今日も朝食の頃には雲の切れ間から青空も、屋上からは大きく岩木山も見える迄に雲も遠慮がちになってきた。



登れるかもの期待で出発、岩木山スカイラインから八合目を目指す、半分程からガスの中になり八合目駐車場では視界数分とい

った状態だった、クルマを出ると直ぐに大粒の雨になったのでレストハウス(テーブル・椅子、和室有)に避難、さ~てドスンベ、外に出ると雨は止んでいる、発電機の音を頼りにリフト乗り場へ、リフトは運転している。これを使う手もあるということで、メンバーに諮るが残りいたい数名を除き、リフト派で一致、リフト使ってチャッチャッと登ってこようとなった。

標高差200m を10分で稼ぎリフト上の1470mから山頂を目指す。回り込みように小さく下り下山(登山)路合流点から



僅かで鳳鳴ヒュッテ(避難小屋)に出る。雨はないが濃いガスの中、岩ゴロの急登となる、右側

通行を指示する看板あるがなので、ほぼ右側の踏み跡を追って上へ上へ、火山岩は滑り易くないが時折吹き上げてくる風もあるので慎重にゆっくりと登る。

登りは遠望で3つに見える一個目ピークを巻いて小さな鞍部から再び岩の火山



灰と岩道の急登になるが、頂稜部となったことで風当たりが俄然強くなる。風に押され、逆らって登り山頂部に出る、石造り台座の鐘があり、一等三角点が頭だけ出



していた。風を避けて移動、岩木山神社奥宮に参拝、神社休憩所前で一休みと写真を撮って往路を下山

する。山頂ピーク下までは風にあおられないよう注意しながら下る、眺望はない

ヒュッテ見ながら下り続けて気が付くと目の前に鳳鳴ヒュッテがあった。リフト手前の下山(登山)路に入り、雨に濡れた樹林の下りになり山頂から1時間で駐車場に降りた。



レストハウスで待機班と昼食、あとは新青森へ戻るだけとなった。

クルマに戻った直後大粒の滝のような雨になったが10分程で小降りになるが、下山時に駐車場辺りにいた登山者はどうしたろうか?

下界の道を走る頃には、きれいに全身を見せた岩木山も望むことが出来た。

展望のある日にまた訪れたいとの思える姿だった。

帰りの列車は意外と混雑、全員バラバラで列車反省会はなしで解散となった。



3日共秋雨前線

真下だったが、ラッキーな合間を縫って山頂に立てたのはうれしかった。但し、折角多くの参加者で実施できたのに青空の山に会えなかったのは申し訳なかったと思っています。山の神様の気まぐれということでご容赦ください。これに懲りずには是非これからもこぶし会の方にご参加ください。

次は神様も微笑んでくれるかも知れません。エッ! 返り討ち どうか逢いませんように(@_@;))

(記&写真・涌井 良明)

(写真提供・伊藤 久雄)

